

■伊勢町3丁目 舞台の竣工

伊勢町3丁目舞台が無事に修復竣工し、昨年の11月、深志神社御神前にて入魂清祓い式を行いました。舞台保存会が発足し、平成の舞台修理事業が始まって12回目、舞台修理審査委員会と修理プロジェクトによる修復舞台としても10回目になります。

伊勢町3丁目舞台というのは、なんとというか、あまり特徴のないのが特徴の舞台で、目立たない舞台です。人形はなく、彫刻も多くはありません。姿かたちは実にすっきりとした典型的な深志舞台なのですが、16台の中に紛れると何処と云って抜けた個所がなく、その



入魂式伊勢町3丁目舞台



伊勢町3丁目舞台の八双金具

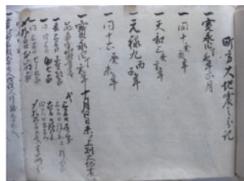
木目は清雅な趣きで美しく、また随所に施された鍔金具は、派手さはありませんが丁寧な仕上げで好感が持てます。特に高欄下の波千鳥の八双金具はたいへん好ましい。金具修復を担当した職人さんによると、この八双金具は下地にベンガラを朱漆を塗り、磨き上げた上に箔押しして仕上げられているのだそうです。光を受けてと下地の朱色が滲むように洩れてきます。金色に独特の深みと色気が加わって大変美しい。新しい伊勢町3丁目舞台をご覧になる時は、ぜひ注目していただきたいところです。

また、今回伊勢町3丁目舞台は深志舞台の中で唯一、銅板で屋根が葺かれました。しばらくは陽射しを受けてキラキラと輝くことでしょうか。今年の天神まつりがお披露目ですが、この舞台、どこか高いところから見下ろして眺めるのも一興です。

東日本大震災に際して

3月11日、東北地方太平洋沖大地震による東日本大震災により亡くなられた二万数千に及ぶ御霊に謹んで哀悼の心を捧げます。当社では3月25日の祈年祭にあわせ被災地被災者の復興を祈願する祭事を斎行いたしました。また被災者義援金を拝致し(写真①)、祈祷受付でお受けし、19万円余を日本赤十字社長野県支部を通じて送りました。神社界での被害は1都15県に及び、神職の死者は行方不明者8名、神社の本殿・拝殿等の全壊・半壊2,288社、その他建物の損壊1,228社、工作物被害1,930社、総数3,506社という多数となっています。5月17日現在、神社本庁調べ。さらに福島県原発による避難地域の神社数は2,400余社もあります。神社界では総力をあげてこれらの復興対策に取り組んでいます。

【写真①】 拝殿での義援金のお願い



【写真②】 「町方大地震之分記」(河辺家文書)

30年以内にM8程度の地震が起きる確率は14%で、また東日本大震災で上昇したと推定されています。松本での江戸時代以降の地震発生をみると、次のようになります。「(松本市史「町方大地震之分記」(河辺家文書)代々諸書留覽)」

寛永4(1627)年、同10年、天和3(1683)年、元禄9(1696)年、同16年、宝永4(1707)年、享保10(1725)年、寛延4(1751)年、天明9(1781)年、同2年、寛政3(1791)年、文政2(1810)年、天保12(1841)年、嘉永5(1854)年、同7年、安政元(1854)年、明治24(1890)年など、約300年に17回とかなり頻りに起こっています。なかでも宝永4年・享保10年・寛政3年が大地震として、崩家人数や対処のありさまが記録されています。

■菅公と地震

当社御祭神菅原道真公との関わりでは、貞観11(869)年の三陸沖での推定M8.3大地震の翌年、菅公は官吏の国家試験を受けられたが、その問題の1つに「地震(ないふる)を并せよ」があり、好成绩の答案でしたが、これからも当時、地震への対処が国家的課題であったことが知られます。また、菅公編纂の『三代実録』には地震の記載が多く、同じく編纂の『類聚国史』にはそれまでの地震の記録が集録されています。このように菅公も地震に深い関心を寄せられています。



総会で挨拶する副会長

■第6回松本市 舞台サミット開催

6月4日、平成23年度の舞台保存会総会が梅風閣3階「飛梅の間」で開かれました。今年には役員改選もなく、通常の事業報告・会計報告がなされ、23年度の事業計画・予算と共に承認されました。総会に続き、同じ会場で「松本市舞台サミット」が開催されました。

舞台サミットも今回で早6回を数えます。第1回は平成12年に開催されていますので、概ね2年に1回開催してきたこととなります。これまでのサミットは舞台の解体の実演とか、お雛子DVDの制作発表など、にぎやかな催しが多く、主催者側も随分と技術を要しましたが、今回は講演会を行いました。

講師は立川流彫刻研究の第一人者である間瀬恒祥先生です。「立川流の変遷と伝統保存のあり方」という演題で、約1時間の講演をいただきました。

松本Jcより 植樹献納

6月11日、松本青年会議所により境内中庭に紅梅白梅が献納されました。当日、全国城下町青年会議所連絡協議会が主催する「城下町復興」地域と時代を牽引する「城下町復興」の第1歩を主題とする第30回全国城下町シンポジウム松本大会を松本青年会議所が主催し、その第2分科会「宮脇方式植樹を通じたまちづくり」が、「ふるさとの森づくりは城下町を委ねられるのか」未来に繋がる地域をめざして「植樹とまちづくり」を課題として市民芸術館と当社とを会場に実施されました。

これは宮脇昭彦氏(国立大学名誉教授・国際生態学センター長)が提唱し、国内外で広く実践されている宮脇方式による植樹活動を、城下町の地域(まちづくり)と人づくりに役立てようとして、松本青年会議所が数年前より実施している活動を、今回は鎮守の社である当社を会場にして実践し、本殿裏庭数ヶ所に椎タフ山桜などを、東北大地震の慰霊と復興へ思いをいたし、被災した宮城県名取市の瓦礫の木材も用いて植樹しました【写真③④⑤⑥】。あわせてこれらを記念して同会議所副理事長小林稔政氏ほかにより、当社緑の紅梅白梅の樹が植樹、献納され、神事が行われました【写真⑦】。



【写真③】



【写真④】



【写真⑤】



【写真⑥】



【写真⑦】

今年には元日本代表松田直樹選手はじめ新加入8名などで戦力が向上し、奉納の絵馬には会社チーム、アンサポータみんなまで「松田選手」チームが「」になって聞えますように「須藤キャプテン」などの決意が記され、幣殿に掲げられています【写真⑧】。

織・チーム・サポーターが丸となり、戦々々を全力で戦い、悲願達成へ前進することが期待されます。

ふかし

深志神社社報 第12号

平成23年夏号
深志神社は信州松本城下
南深志の地四十八ヶ町
氏子の守り神さまです



ふかし 深志神社社報 第12号
発行日 平成23年6月25日
発行所 深志神社社務所
〒390-0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
http://www.fukashi-tenjin.or.jp
印刷 (株)日本広告 (4,000部)

もうすぐ天神祭りです

【前夜祭】7月24日(日)

17:00～ 舞台曳き込み
17:00～19:00 日本舞踊奉納
19:00～ 前夜祭神事
20:00～ 詩吟・剣舞

【例大祭】7月25日(月)

11:00～ 例大祭神事
13:00～ 穂高太鼓奉奏
14:00～17:30 御神輿御巡行
15:00～ お雛子スクール(演奏発表会)
15:30～ 舞台出発



運御した神輿



境内の神輿と舞台



中央西公園でお休みの神輿



街中で行きあう神輿と舞台

ホームページ リニューアルのお知らせ

当社ホームページは3年目を迎へ、およそ5万人の方々を訪問頂き、多くの問い合わせを頂いています。その内容は「ご祈祷や奉式、駐車場、御宴席等、多岐にわたります。これらを踏まえ、より良く、分かりやすい情報を皆様にお伝えする為にリニューアルしました。

基本的な部分を継承しつつもデザインの変更やインフォメーションの精査、併設の梅風閣ホームページとの繋がりを強め、親しみやすいページになっています。大きく変更した点については次のようになっています。



天神深志神社ホームページ <http://www.fukashi-tenjin.or.jp/>

今後共、氏子崇敬者の皆様によりよい情報を発信していくよう運営していきます。また、近づいて来ましたが、例大祭天神祭の各夏祭りについてもまだHPでご案内します。皆様のご訪問をお待ちしています。

- ◆フォトギャラリーの追加
- ◆年間を通しての祭典や境内の写真
- ◆授与品のページ
- ◆当社で頒布している授与品の紹介
- ◆松本深志舞台保存会のページ新設
- ◆独立したリンクを作成
- ◆デザインの変更
- ◆各ページのデザインを変更

八坂祭でお子様の健やかな成長をお祈りしましょう

八坂祭は、梅雨が明け夏を迎えるに際して病気除けや虫封じなど子ども健やかな成長を祈る祭です。14日の宵祭には霞につけた五色の轆を奉納する多くの子どもたちが賑わい、あわせて家族で家内安全を祈る姿が見られます。

いた尾張の津島神社(天王社)から分霊をいただいて祀られました。なお、五色の轆紙と霞はスパー、八百屋、魚屋などや当社でも扱っています。

奉納 八坂大(明)神

(浄書例)

○(主) 年 生 ○(次) 八坂(女) (氏名)



神前に轆を奉納する子供、家族

深志神社の神さまが、年に一度、町内を巡られます。どうぞお迎えください。

平成23年度 深志神社例大祭(天神祭り) 御神幸式 神輿渡御巡路(車載) 天満宮神輿 7月25日(月) 午後2時～5時30分

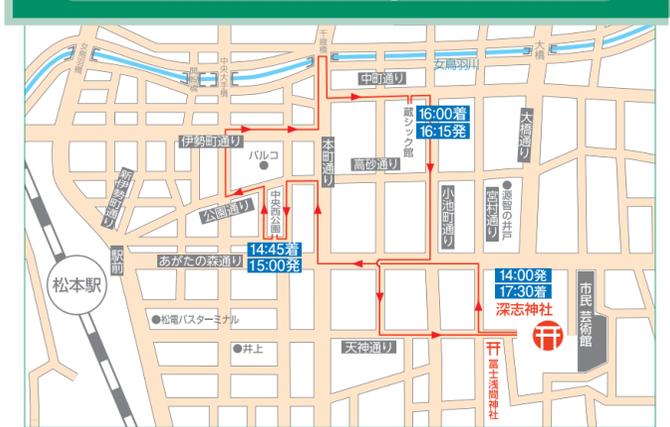
自動車による神輿渡御巡路は西(鎌田)先回りと東(清水)先回りとなり。今年は西(鎌田)先回りです。



お神輿をお迎えしましょう

- ◆一年に一度のご神幸では、氏子の平安をつねにお守りくださる氏神様が、氏子地域を巡り、皆様の生活をご覧になると共に、氏子の方々が神様に身近にお迎えし、感謝の祈りを捧げます。
- ◆中心市街地を巡られる元禄神輿は松深会の万燈神輿のあとに、また氏子全域を巡られる車載のお神輿は先触れの広報車も通って間もなく参りますので、家族そろってお迎え、おまいりください。家族の平安な姿こそ、神さまがもっともお喜びになります。

元禄神輿渡御巡路(車載) 宮村宮神輿



信州松本松深会ほかの人たちの奉仕により、かつがれて渡御します。

松本藩・藩士の崇敬

暦応2(1339)年に創建されたお諏訪さま(建御名方命)を祭神とする宮村明神に、慶長19(1614)年、深志城主となつた小笠原家が鎌田の大満宮を勧請し、鎮座されて以来、当社は文武の神として松本藩の歴代藩主である小笠原(松平)戸田、水野、堀田、戸田家等から社殿宝物ほか諸々の崇敬の証しが寄せられてきました。そして藩士からも学芸の神である天神様に種々の品物が寄進奉納されました。

ここではあまり気づかれない、それらの端を紹介いたします。なお藩士奉納物としても目につくのは絵馬です。現存する約80面のうち、藩主戸田光庸を含み、約40数面に及ぶ、それらの紹介は別途改めてします。

藩士奉納の手水鉢

現在、拝殿の右方、神符等授与所の南側に手水鉢があります【写真①】。正式の手水舎と手水鉢、昭和30年、奉賛会奉納した正面参道の北側にあります。こちらの手水鉢を利用される参拝者にはあまり見かけられませんが、これも本来の手水鉢は「こちら」です。安山岩で作られた総高59cmの鉢の下面には、次の銘文が刻まれています。



【写真①】手水鉢

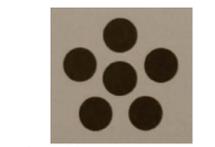
「奉献 御神前 林良道・古橋師平・鶴見次早・玉生定功・友成久恒・近藤正修・鶴見次統・戸田吉栄・多湖一至・栗田正丈・稲村為白・友成貞生・井田政宏 文化十年甲戌六月之吉」

名が見える林近藤・戸田氏等は、家老に次ぐ年寄役であった一族かと推され、また文化11(1814)年は、藩士の教育機関である崇教館が寛政5(1793)年に開設されて約20年後で、これらの藩士はそこで学ぶ仲間かとも推測されます。

なお天保14(1843)年序、嘉永2(1849)年刊行の『善光寺道名所図会』には、この手水鉢が西正面参道入口、鳥居前南側に描かれ、ここが元の場所です【図①】。



【写真②】釣灯笼



【写真④】戸田家の離れ六星紋

【図②】善光寺道名所図会(1849)に見える拝殿

藩士奉納の釣灯笼

現在、昇殿して拝殿で祈禱を受けられると、神職が祝詞を奏上する幣殿の天井に、右脇間の天井に燈籠が1基釣るされています【写真②】。銘文に「奉納/享和元(1801)年辛酉三月吉日/小室十之丞・友成新口郎・柴田安太郎三宅逸早次西郷東十郎・細見甚之進」とあります。また左脇間の天井の釣燈籠も同形、同寸同紋様で、「竹内喜八竹内久治郎三澤半助」の名があります。これらのうち西郷友成家は年寄役勤務の有力家である一族とみられます。翌年は天満宮御正忌九百年祭でしたので、それを期した奉納なのでしょう。

この神楽殿は、もとは左隅の「善光寺道名所図会」(図②)にみえるように拝殿でした。なお、現在の拝殿は幣殿と称されています。なお、昭和3年の当社由来書にも拝殿と記され、神楽殿というようになったのはそれ以降でしょう。

この拝殿の由来は、最初は慶長19年(1614)に勧請された天満宮の拝殿が小笠原氏により造立され、のち寛文12年(1672)、水野氏により京間三間四方に新しく建たされました。藩主が神拝する御殿であったので代々藩で普請してました。そして文化14年(1817)、西へ九尺寄せましたが、これは幣殿と拝殿の間が狭く、舞台を引く時にその破風で幣殿の屋根根瓦が落ちるためでした。(宮村宮天満宮絵図)「河辺家文書398」による。

神楽殿(拝殿)の紋

現在の神楽殿東西の軒下壁につけられている紋があります【写真③】。これは松本藩主戸田氏定紋の「離れ六つ星」と推測されますが、どうでしょうか。それは次のような紋です【写真④】。

この神楽殿は、もとは左隅の「善光寺道名所図会」(図②)にみえるように拝殿でした。なお、現在の拝殿は幣殿と称されています。なお、昭和3年の当社由来書にも拝殿と記され、神楽殿というようになったのはそれ以降でしょう。

この拝殿の由来は、最初は慶長19年(1614)に勧請された天満宮の拝殿が小笠原氏により造立され、のち寛文12年(1672)、水野氏により京間三間四方に新しく建たされました。藩主が神拝する御殿であったので代々藩で普請してました。そして文化14年(1817)、西へ九尺寄せましたが、これは幣殿と拝殿の間が狭く、舞台を引く時にその破風で幣殿の屋根根瓦が落ちるためでした。(宮村宮天満宮絵図)「河辺家文書398」による。

神輿かつぎを 奉仕しませんか!!

天神祭りのご神幸(25日)で、お神輿をかつぐ方や威儀物(神様をお守りする櫓や鈴など)を持つていただく方(神輿渡御奉仕員)を大募集!! 女性も歓迎。

氏子や、その他ごなたでもお祭りにご奉仕できる貴重な機会です。ご希望の方は神社までお申し込みください。



これらからは、その軒下の紋が戸田氏の離れ六星紋だとすると、それがつけられたのは文化14年に今の場所に移された際かと推測されます。

いまつの推測として、これを当社の天満宮が勧請された本社北野天満宮の神紋である星梅鉢とみることもできます。両者は類似していますが、戸田家の紋は「離れ六つ星」といわれるように星の間が離れているのが特徴です。また、当社の元禄奉納神輿の紋は中央の星が小さくその周囲に剣がある剣梅鉢紋です。可能性としてはやはり戸田家の「離れ六つ星」の方が高いと思われまます。なお、いずれにしても戸田家の「離れ六つ星」と天満宮の神紋は類似しています。このことから、戸田家では当社への崇敬がごとく篤かったのではないかと推されます。